

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100406		
法人名	社会福祉法人 朋友会		
事業所名	グループホームたけべ		
所在地	岡山市北区建部町建部上557 - 2		
自己評価作成日	H22年12月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100406&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1 - 6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成23年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

温泉をひいている。花壇に季節の花を色々植えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭川沿いの福渡市街を望める風光明媚な場所にあり、天然のラドン温泉が引かれている。2ユニットで、各ユニット内はバリアフリーで、4箇所の車椅子対応トイレがある。居間には味わい深い絵画やアンティークな置物が飾られ、隣接して法人母体が運営する複合施設があり、「地域交流スペース」では月に1~2回演芸奉仕等も行われ、図書室もあり、入居者も参加し、地域の皆さんと語らいの場となっている。職員は明るい笑顔を絶やさず、家庭的で温かい雰囲気を作り出しており、建物周囲には季節の花が植えられ散歩して外気浴を楽しむことができる。近くの総合病院と協力関係にあり、常時診療対応があり安心して安らぎの生活を送れる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をどの職員も見えるように掲示し、それに伴ったケアを実施するように心がけている	理念は事務所に掲示され、日々の記録の上に貼ってある。管理者は職員とよく話し合い、日常の介護に理念を具現化し実践することをケアの根本にと心している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で行う行事に、地域の方を招待したり、ボランティアで来ていただき、入居者との交流を図っている	コーラスボランティアが毎月訪問している。身体状況の重度化により、遠方に出てゆく機会が少ないが、隣接の地域交流センターに出かけ、踊り・手品・演芸等を楽しみ、地域の皆さんと交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告をして、それに対する質問や意見があれば、発言していただき、活かすようにしている	おおむね2ヶ月ごとに開催している。入居者の動向や行事を報告し、インフルエンザの勉強もしており、メンバーよりホームへのアドバイスもある。防火訓練を運営推進会議委員と一緒にすることも考慮中である。	欠席者に議事録を送り、地域のお巡りさんやボランティアの方にも参加を呼びかけて、より地域と関係を深め、充実した運営会議になることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に出席し、各事業所間での情報の共有・交換をしている	認定更新時や困難事例を行政担当者と相談しており、要支援1に変わった人の対応等について指導もある。日頃より担当者とは協力関係を築くようにして、研究会や会議には積極的に出席するようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はやむを得ずしているが、身体拘束についての勉強会を実施し、その他の身体拘束に当たる行為はしていない。	「虐待や身体拘束はしない」とした宣言文を事務所に掲示しており、職員会議後に読みあげて意識向上に努めることを予定している。家族と相談し、センサーマットの使用等入居者の安全について工夫をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、それに伴った職場内での研修会(勉強会)を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだできていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはできるだけ詳細に説明することを心掛け、質問を受けたことに関しては、納得いただけるように返答するようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換を実施したり、玄関先に御意見箱を設置している。	面会時や家族会で質疑応答をし、意見箱も置いている。個人個人とは直接面談して意見・要望を聞いている。緊急時には家族に電話して、その意見を運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的実施し、意見を交わしているが、すべてを把握しきれていない部分もある。	2ヶ月毎に職員会議をし、1ヶ月に1度主任者会議を行い、職員の意見を吸い上げている。物品購入等細かいことまで職員の意見・提案を運営に採り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間過ごす休憩室を設けたり、介護職・一般職・時間給職問わず処遇改善手当を支給している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加する場合、希望休を聞いたり交通費等を支給している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に参加したり、近隣にあるグループホームとの交流(見学・意見交換)を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ、本人とコミュニケーションを取るように心掛け、不安や希望を聞きだし、対応できるように心掛けている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの時点で、ご家族の方とも話をし、本人の事(家族の思い)を聞くようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでのケアが厳しいと判断された場合には、他の事業所の紹介をしようとしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものを干したり畳んだり、部屋や共有スペースの掃除をしてもらっている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなくご家族にも相談・報告し、できる事はしていただけるように、お願いしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所だった方の面会や、散歩時の再会で、関係が途切れないようにしている	身体状況によっては遠くには行けないが、広い庭を散策し、花壇を愛でながら、地域交流スペースで馴染の人と交流している。薬をもらいに行ったついでに、自宅に立ち寄る等馴染の関係維持に工夫が見られる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい方や関係の微妙な方を把握し、できるだけ、トラブルのないように関わりあえる環境を作れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方のご家族に、その後の様子などを聞き、相談事があれば、できる限り対応している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテーク時に聞いた事は把握し、十分に聞けなかった場合には、入居後も家族や関係者と話をし、聞くようにしている	入居時にアセスメントを進め、家族や馴染の人との面会時意見交換し、個々の入居者の思いや希望を把握するようにしている。誕生日には好みの物を頼み、おやつ等にも本人の嗜好を採り入れるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のインテークで本人やご家族に生活歴を聞いたり、入居後は馴染みだった方や友人の訪問があった時に、以前の様子を聞いたりしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、個々にあった対応ができるよう、把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に対して気になることがあれば、ご家族に報告し、対応策を考え実施するようにしている。職員間で意見交換を行っている。	1~2ヶ月で担当職員がモニタリングし、介護計画立案のカンファレンスではそれを参考にし、それぞれ意見を出し合い、家族の要望等も集約して、現状に則し、自立支援に沿ったプランを立てている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をして、気になることがあれば、個別のカンファであげて、今後の対応を考えるようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出・外泊等の対応や、通院時の送迎等にできるだけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事等の個人単位で楽しめるものに参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に往診や受診をお願いし、緊急時にも連絡し、対応をしてもらっている。入居前に掛かっていた病院等との関係も、希望される限り続けられるよう支援している	殆どの入居者が協力医をかかりつけ医としており、往診も定期的にある。精神科・歯科等には家族が付いて行く。職員に看護師もあり、受診支援は着実に実行されている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、常勤として勤務しているので、異変があればその都度相談して対応している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や、病院関係者と入院時の状況の確認や、退院の目処がついた場合、迅速に対応している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、入居時に書類を用いて説明し、できることに限度があることを伝え、そのような状況になる可能性があるご家族とは、事前に今後の対応について話し合いを設けるようにしている	家族の希望により、重度化してもお世話しているが、看取った人はいない。状況によっては家族・かかりつけ医ともよく話し合うことにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習を受けたり、緊急時のマニュアルを作成している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署・業者立会い元、昼夜対応の避難訓練を実施し避難の手順は把握するように努めている。	年2回、6月と11月に昼夜を想定して消防署の指導で、避難訓練をしている。模擬消火器を使ったり、実際に放水訓練もしている。隣のケアハウスと応援体制がある。近所の方にも協力を依頼している。	災害時における近隣の応援については運営推進会議の皆さんと相談して、訓練参加を具体化する努力を期待します。過去には旭川の氾濫もあり、水害を想定しての訓練も勧めます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に以前に働いていた立場や地位が違うので、その方に合った声かけをするように心がけている。	職員は入居者その人に合った声掛けをしている。その気持ちを尊重して、間を置く等、時間・場所に配慮している。原則個室に表札は無く、難聴の人には文字で示し、個々の入居者を尊重し、そのプライバシーを守っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の内容や、外出(散歩等)やレク等の参加は個人に決めてもらうようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、個人のペースを尊重し、散歩や行事・レクといった集団行動の時には、本人の意思に任せるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、個人が持参したもので、その中から本人に確認して、着るものを決めるようにしている。1～2カ月に一度、ホームカット(散髪)に来てもらっている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、下膳、皿洗い等をしてもらったり、同じ食卓で職員も食事をしている。菜園の野菜と一緒に収穫し、食材として使用している。	誕生日にはその人の好きな献立にし、おやつにも配慮がある。職員と一緒に食べている。菜園で散れた野菜の下ごしらえを手伝ってもらい、味噌汁にしている等、食事を楽しむ支援はできている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって量や形態、好き嫌いがあるので、それを把握し適したものをだして、食事量も確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをしたり、出来ない方には誘導して、口腔ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声かけや、ある程度時間がたった方にはトイレへの声かけしている	立てる人は可能な限りトイレ排泄に誘導し、出来るだけオムツを使わない排泄自立を支援している。排泄時間・水分摂取の記録がある。気持ちよく失禁対応が出来るよう温かい清拭タオルを用意している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し、ラジオ体操を含めた日々の運動や、乳製品の摂取など、個人の要望に応じた予防をしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、その日の状況で入る日や順番を、変更している	週2回入浴している。入浴日を決めているが状況により変わってくる。医師の指導で足浴の人もある。週3回入浴にしていたが、時間の関係や本人の状況により2回になっている。	神経痛・リウマチ等に効用のある天然温泉が特徴なので、入浴回数を再考して温泉をリラックスして、楽しむようにしてはいかかでしょう。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、できるだけ日中の活動を促すように声かけや誘導をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の種類や効能・副作用が分かるようにファイルにとじて、いつでも閲覧できるようにしている。服薬時には、手渡しし確実に服用するようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の得意な事をしてもらおうようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたい方が多いので、できるだけ、外出するようにしている。時々ドライブ(花見・紅葉狩り等)や外食に行っている	お天気や体調が良ければ、おやつの後や体操の後に散歩に出かけており、地域交流スペースに寄ってデイサービスに来た人と会って話をする。外出したくない人にも3回に1度は声かけして、外に出るよう取り組んで、日常的に外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、個人でお金の管理ができる方は、新聞代や医療費等を自分で払われたり、散歩の途中で、店によって買い物をしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から手紙があった場合には本人にお渡しし、できるだけ返信するように声かけしている。連絡したいことがある場合は、電話を使ってもらっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに季節の花をおいて季節感を出すようにしたり、季節の貼り絵や飾りを飾るようにしている。	窓から季節を感じられ、テラスにはベンチにクッションを置き日向ぼっこが楽しめる。居間には味わいのある絵画やアンティークな置物・手作りの貼り絵等が飾られている。机は組み合わせにより変化する形で居間の雰囲気を変えており、ユニークな居心地である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースが狭いので、一人にはなりにくいが、利用者同士で思い思いに過ごす場所はある。できるだけ、趣味や嗜好の合う方と過ごせるよう、席の配慮をしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、自宅で使用していたものを持ってきていただくようにしているが、居室が狭いので、ご家族と相談し、できるだけものは持ってきていただくようにしている。	ベッド・布団は貸し出し、テレビ・筆筒・時計や仏壇が持ち込まれ、センサーマットを敷く人もある。認知症が進み、家具・調度が少ない人や、ドアを開けて暖簾を掛けている部屋もあり、それぞれに居心地を工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、自室を迷う方には名札や目印になるものを設置するなど、個人個人に合わせた、環境整備をするようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100406		
法人名	社会福祉法人 朋友会		
事業所名	グループホームたけべ		
所在地	岡山市北区建部町建部上557 - 2		
自己評価作成日	H22年12月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100406&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1 - 6 岡山フコク生命駅前ビル		
訪問調査日	平成23年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>温泉をひいている。花壇に季節の花を色々植えている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念をどの職員も見えるように掲示し、それに伴ったケアを実施するように心がけている		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設で行う行事に、地域の方を招待したり、ボランティアで来ていただき、入居者との交流を図っている		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告をして、それに対する質問や意見があれば、発言していただき、活かすようにしている		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に出席し、各事業所間での情報の共有・交換をしている		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はやむを得ずしているが、身体拘束についての勉強会を実施し、その他の身体拘束に当たる行為はしていない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、それに伴った職場内での研修会(勉強会)を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだできていない		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはできるだけ詳細に説明することを心掛け、質問を受けたことに関しては、納得いただけるように返答するようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見交換を実施したり、玄関先に御意見箱を設置している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を定期的実施し、意見を交わしているが、すべてを把握しきれない部分もある。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間過ごす休憩室を設けたり、介護職・一般職・時間給職問わず処遇改善手当を支給している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加する場合、希望休を聞いたり交通費等を支給している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ネットワーク会議に参加したり、近隣にあるグループホームとの交流(見学・意見交換)を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ、本人とコミュニケーションを取るよう心掛け、不安や希望を聞きだし、対応できるように心掛けている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの時点で、ご家族の方とも話をし、本人の事(家族の思い)を聞くようにしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでのケアが厳しいと判断された場合には、他の事業所の紹介をしようとしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものを干したり畳んだり、部屋や共有スペースの掃除をしてもらっている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけでなくご家族にも相談・報告し、できる事はしていただけるように、お願いしている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所だった方の面会や、散歩時の再会で、関係が途切れないようにしている		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい方や関係の微妙な方を把握し、できるだけ、トラブルのないように関わりあえる環境を作れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した方のご家族に、その後の様子などを聞き、相談事があれば、できる限り対応している		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	インテーク時に聞いた事は把握し、十分に聞けなかった場合には、入居後も家族や関係者と話をし、聞くようにしている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のインテークで本人やご家族に生活歴を聞いたり、入居後は馴染みだった方や友人の訪問があった時に、以前の様子を聞いたりしている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを把握し、個々にあった対応ができるよう、把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に対して気になることがあれば、ご家族に報告し、対応策を考え実施するようにしている。職員間で意見交換を行っている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をして、気になるころがあれば、個別のカンファであげて、今後の対応を考えるようにしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出・外泊等の対応や、通院時の送迎等にできるだけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事等の個人単位で楽しめるものに参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院に往診や受診をお願いし、緊急時にも連絡し、対応をしてもらっている。入居前に掛かっていた病院等との関係も、希望される限り続けられるよう支援している		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が、常勤として勤務しているので、異変があればその都度相談して対応している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族や、病院関係者と入院時の状況の確認や、退院の目処がついた場合、迅速に対応している		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、入居時に書類を用いて説明し、できることに限度があることを伝え、そのような状況になる可能性があるご家族とは、事前に今後の対応について話し合いを設けるようにしている		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生の講習を受けたり、緊急時のマニュアルを作成している		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署・業者立会い元、昼夜対応の避難訓練を実施し避難の手順は把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に以前に働いていた立場や地位が違うので、その方に合った声かけをするように心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の内容や、外出(散歩等)やレク等の参加は個人に決めてもらうようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ、個人のペースを尊重し、散歩や行事・レクといった集団行動の時には、本人の意思に任せるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は、個人が持参したもので、その中から本人に確認して、着るものを決めるようにしている。1～2カ月に一度、ホームカット(散髪)に来てもらっている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、下膳、皿洗い等をしてもらったり、同じ食卓で職員も食事をしている。菜園の野菜を一緒に収穫し、食材として使用している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって量や形態、好き嫌いがあるので、それを把握し適したものをだして、食事量も確認している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをしたり、出来ない方には誘導して、口腔ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声かけや、ある程度時間がたった方にはトイレへの声かけしている		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し、ラジオ体操を含めた日々の運動や、乳製品の摂取など、個人の要望に応じた予防をしている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、その日の状況で入る日や順番を、変更している		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、できるだけ日中の活動を促すように声かけや誘導をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の種類や効能・副作用が分かるようにファイルにとじて、いつでも閲覧できるようにしている。服薬時には、手渡しし確実に服用するようにしている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の得意な事をしてもらうようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたい方が多いので、できるだけ、外出するようにしている。時々ドライブ(花見・紅葉狩り等)や外食に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、個人でお金の管理ができる方は、新聞代や医療費等を自分で払われたり、散歩の途中で、店によって買い物をしている		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人から手紙があった場合には本人にお渡しし、できるだけ返信するように声かけしている。連絡したいことがある場合は、電話を使ってもらっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルに季節の花をおいて季節感を出すようにしたり、季節の貼り絵や飾りを飾るようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースが狭いので、一人にはなりにくいが、利用者同士で思い思いに過ごす場所はある。できるだけ、趣味や嗜好の合う方と過ごせるよう、席の配慮をしている		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ、自宅で使用していたものを持ってきていただくようにしているが、居室が狭いので、ご家族と相談し、できるだけものは持ってきていただくようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、自室を迷う方には名札や目印になるものを設置するなど、個人個人に合わせた、環境整備をするようにしている。		